

第5回理事会

日時：2010年5月28日（月）

18:30～22:00

場所：札幌第一ホテル

議 事 録

1. 開会 岡澤専務理事
2. JCI クリード唱和 荒木副議長
3. JC 宣言朗読並びに綱領唱和 田中議長
4. 出席者の確認 大越委員長
理事長／玉腰勇吉
直前理事長／佐々木和宏
副理事長／小澤輝真・白戸君央・北嶋仁
専務理事／岡澤邦幸
監事／荒木健介・鈴木博昭
常務理事／白井晴彦
常任理事／齊藤康二・高橋昭典・石田浩士
理事／池崎潤・伊澤祐輔・熱田直樹・齊藤大輔・松井勝史・田中良弘・荒木康充・小田切英樹・小林万記・岸田卓也
オブザーバー／川口淳・東岳夫・太田富士栄・千葉直哉・竹原慎雅・林将告・大越誠之・後藤由太郎（田崎事務局長代理）
欠席者／田崎秀明
5. 議事並びに資料の確認 岡澤専務理事
6. 議事録署名人及び作成者の指名 玉腰理事長
議事録署名人／齊藤大輔・岸田卓也
議事録作成者／総務運営委員会
7. 理事長挨拶
玉腰理事長

皆様こんばんは。第5回理事会にご出席いただき、皆様有難うございます。そして気が付くと、1月から5回の回数を重ねております。そんな中、皆様は何を思い、何を学んで来られたのでしょうか。委員長の皆様は上程に追われ、運動に追われ、今、足元がどうなっているか気付かないような時期にさしかかっているのではないかと思います。今一度、初心に立ち返り、最後の帰着点、誰のために、何のために、その運動がどのように伝わっ

ていくのか、もう一度見つめ直して運動していただきたいと思っております。

この第5回理事会は、次年度も決定する大切な理事会であります。しかしながら、次年度が決定しても、2010年度には変わりありません。最後の最後まで気を抜くことなく、60周年に、我々の素晴らしい橋をかけることが、ここに座っているメンバーの責務であります。そして、その60周年に花を添えるために、私が理事長指名をいただいた時から申し上げている、会員拡大につきまして、皆さんどうでしょうか。進んでいるでしょうか。きっと、やらなければいけないのだという気持ちは、皆さんお持ちいただいていると思います。しかしながら、どこかに甘えがあるように私には見えません。本当に、会員拡大だけをやれば良いのでしょうか。委員長の皆さん、理事者の皆さん、もしかすると、あなた方が会員拡大の議長、副議長、事務局長であつたら、もっと真剣に会員拡大をしていると思います。今一度、会員拡大がなぜ必要であるか、そして、この会員拡大という事業は、全メンバーに対して私がお願いしている事業であると共に、札幌青年会議所が創立された時から、全メンバーに付託されている事業であると、再度認識していただきたい。そして何よりも、この会員拡大というものは、今年成功すれば良いというものではないのです。我々が卒業しても、会員拡大には、一生付き合っていかなければならないのです。それは、我々が愛する札幌青年会議所を無くしてはならない、その信念から、我々がどのように行動しなければならないかという事が、おのずと結論付けられるのではないかと思います。我々の仲間であるメンバーに、来年委員長になるであろう仲間に、一人でも多くの新入会員をあてがってやりたいし、そして一人でも多くのメンバーを次年度へ引き継ぎたい、それは私だけの想いではないと信じております。ですから、皆の事業であるということをもう一度認識していただいて、私に力を貸してください。私も精一杯やっております。皆さんに、自ら背中を見せるとお約束した以上は、何があっても必ず10名入れます。何とか、皆さんのお力があれば、札幌青年会議所は、未来永劫素晴らしい組織であることは間違いのないのです。60周年に向けて、共に手をとって、弾みをつけたいと思います。何卒皆様のご協力をよろしくお願いいたします。理事長挨拶にふさわしい話であったかどうか解りませんが、私の想いを話させていただきました。以上でございます。

8. 直前理事長挨拶

皆様こんばんは。第5回理事会にお集まりいただきまして有難うございます。只今理事長から、非常に熱い想いのこもったお話がございました。この理事会の前段に、会員拡大についてのお話が委員長の皆さんにあったと聞いております。昨年、理事長として大きな結果を残せなかったその責任を、今年は背負いながら、会員拡大をさせていただくという誓いをしている以上、私も先日、函館の昨年の理事長でありました藤澤直前理事長に、函館JCの知り合いの方をご紹介していただいて、お会いして参りました。札幌JCに入ろうか検討しているという方とお話して参りましたが、色々な形で、私も何とかキット回収ということをしなければならない、そういう想いで日々運動しております。まずはここにいる、理事会にお座りいただいているメンバーの皆さんが、まずは一人入れるのだということに誓うことで、各委員会、メンバーに、その気持ちが伝わるのかと思います。非常に厳しい経済情勢でありますので、そう簡単にいかないということは当然解っていることで

すが、やるかやらないか、入れるか入れないかということだと思います。是非私も責任を持ってやりますし、皆さんと共に、玉腰理事長を支える会員拡大成功に向けて、全力で邁進したいと考えております。

5月のゴールデンウィークには、北海道地区協議会の津田司副委員長が出向しております委員会で、憲法タウンミーティングということで、連休中の5月3日という日にも関わらず、玉腰理事長をはじめ、札幌のメンバーの皆様には、道新ホールにお集まりいただきまして、誠に有難うございます。一昨年、札幌市民会館で行われました憲法タウンミーティングの時には、集客に非常に苦戦をしたということでございますが、本年度は、委員会の努力もあり、また、札幌のメンバーの友情を大いにいただき、何とか多くのメンバー、市民の方々にご来場いただき、無事成功出来たということで、私からも御礼申し上げます。これから来月も、エリア、地区の事業が佳境に向かっており、また、全道大会に向けても、大きな議論をしながら、日々意見をぶつけ合っているという状況でございます。本年度は、留萌の地での全道大会ということで、今まさに、メインフォーラムをどうするかということで、今週末の土日、千歳にて正副、役員会がございしますが、大きな山場になってくと思います。来月くらいには、皆様に、留萌大会のある程度大きな目的、事業についてのPRが出来るかと思います。理事、委員長の皆様には、全道大会にもご理解、ご協力をいただきたいと思います。

最後に一つ、4月の例会でもPRさせていただいておりますが、公職でいただいております、コンサドーレ札幌の取締役という役職、本日も午前中に、札幌ドームのコンサドーレの事務所にて、定例の役員会がございました。皆さんもご存知の通り、ゴン中山が加入したということでございますが、成績が低迷しており、大変苦戦しております。スポンサーも、胸についていたニトリさんが、袖に移るということで、資金面でも苦勞しております。コンサドーレだけではありませんが、J2全般を見ますと、サッカー界の中で、J1よりはるかに苦戦しているということもあります。我々の先輩が、コンサドーレを誘致するために、大きな旗を振り、その結果実現したというプロチームでございます。この大変な時期に、お手元に配らせていただきました回数券のご案内、また、委員長の皆様にはサポートシップということで、52,500円ということではありますが、是非サポートシッピスポンサーにお入りいただきたい、コンサドーレを応援していただきたい、そんな事も考えていただければ幸いです。来年は玉腰理事長が直前理事長ということで、コンサドーレの取締役に入ります。脈々と受け継いできたこの地位も、何とかそういう気持ちで支えていただければと思います。今日はもう、次年度理事長が決まる大切な議案もありますし、国際アカデミーの誘致という大切な議案もあります。是非理事者の皆様には活発な議論をいただきたいと思います。今後の札幌青年会議所を背負う、大切な案件でございます。素晴らしい理事会になることを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

9. 議長の選出

定款に基づき、玉腰理事長。

10. 前回議事録の承認

玉腰理事長

何かございましたら、本理事会終了までに総務運営委員会にお申し付けください。無き場合は、理事会終了をもって承認とさせていただきます。

11. 審議事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 四月「JCメンバー資質向上」例会開催報告(案)の件

高橋室長

資料に基づき説明。

【決算確認】

白井常務

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

(2) 2010年度(社)札幌青年会議所 「サマーコンファレンス」札幌LOMナイト開催(案)の件

高橋室長

資料に基づき説明。

【予算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

(3) 2010年度(社)札幌青年会議所 八月「子どもの心育成」例会開催(案)の件
齊藤室長

資料に基づき説明。

【予算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

熱田理事

写真用パネル31, 500円は、どのようなパネルでしょうか。

齊藤室長

地域ホームステイを行い、写真を撮りますが、こちらの様子を写真に残した方が良いのではないかと考え、パネルにして寄贈するというございます。

荒木副議長

記載の方法なのかどうか解りませんが、先月私の質問の中で、講師料の件が出ていたと思います。私も直接その来る方を、関東では有名だとおっしゃっていましたが、その方を勉強していないということもありまして一概には言えないと思うのですが、この金額が妥当かということの部分の記載が紛らわしいと思います。妥当だと誰が決めたのでしょうか。その辺を、記載しにくいとは思いますが、どうしてその講師で、その金額になったのかということ、もう少し詳しく書いていただきたかったと思います。意見です。

齊藤室長

今後このようなことがあるかと思いますが、妥当という言葉を使わずに、例えば、この時にはこういった金額で今回はこのようになります、といった理由を記載させていただきたいと思います。今回は、妥当という記載を削除させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

北嶋副理事長

そもそも、何故この講師なのかという部分ですが、決して地域ホームステイに特化した講師ではなく、地域コミュニティの重要性を説いてくださる方であります。八月例会で、我々が何を発信したいかと言いますと、子どもの心を育成するにあたって、地域コミュニティがいかに必要かという事を市民に発信したいと思っておりまして、まずはこの講師でございます。講師料に関しましては、確かに何度かは交渉させていただきましたが、過去の講演の実績を踏まえた上で、それよりも若干安い金額ということで、妥当と書かせていただきました。このままにさせていただければと思います。

玉腰理事長

先ほど、妥当という文言を消去という話もございましたが、消去すると、その場で文言を変えなければならないものですから、今後、妥当という文言を使わないということで、ご了承いただけますでしょうか。有難うございます。

伊澤理事

八月例会の事業内容の所、講師の所に、朝霞JCとわざわざ注記してあるので、これも取ってしまって良いのではないのでしょうか。

齊藤室長

外部ということですので、こちらは削除させていただきます。

伊澤理事

事業概要の中で、事業参加団体募集に伴うブース及び地域ホームステイ物語の写真展をすると書いてありますが、これの中身をざっくりと書いてあります。これは例会の中でどのように行うのでしょうか。

北嶋副理事長

V番に関しましては、委員会としては、この例会が終わった後に、この事業が如何に広がっていくか、ということがまさにこれでございます。内容はIV番までなのですが、V番

に関しては特に、この例会が終わった後に、この事業を如何に広めていくか、その手法の部分を書いています。教育関係者をお呼びするのですが、その場で報告すると共に、それ以降の参画を、その場で募集したいというように思っております。そして過去の地域ホームステイの紹介等を記載しております。この例会というよりも、今後の広がりという部分でご理解いただければと思います。以上です。

伊澤理事

この文面で行くと、例会会場の後ろ側にパネルをずらっと並べ、資料を並べて、それで終わりという気がします。何故このような質問をしているかと言いますと、先月の理事会で、この事業は当然引き継いで貰う、また行っていただくという所が一番重要な所ではないか、という質問を私はいたしました。多分それを受けて、このプログラムを入れたのだと思いますが、自分たちがお客さんとしてこれを見た場合、これで実際にどこまで重く受け止めるのでしょうか。ただ単純に、当日の写真を並べて後ろに置いておきます。資料をテーブルに置いておきます。募集すると書いてありますが、募集をするとは、具体的にどのような募集をするのか、という所が、記載出来ないのかも知れませんが、説明もありませんでした。それで私は今こういう質問をしているのです。でも残念ながら、副理事長からも、そこに踏み込んだ説明というものが無かったのです。ただ単純にホームステイをやりました。そしてその結果を、ホームステイにしても、実際にはメンバーが立ち入る部分が非常に少ない、委員会メンバーが時々様子を見に行く、また、実行に当たっての下準備をする、その程度です。だから、実際のホームステイという手法を、LOMメンバーが直に見るというチャンスが非常に少ない訳です。そういった事業に対して、こんな事を行いましたと例会で言う訳です。講師を呼んで説明して貰う訳ですが、本町のこの地域で行う部分の、目に見える部分が非常に少ない訳です。パネルを並べるという程度で伝わるのですか。そこを聞きたい訳です。単純にV番で最後にくっつけてありますが、この事業で、一番肝心なのはここだと思ふ訳です。講師は本州で行っていますが、本町でのこの事業には実際には来ていない訳ですよね。実際に見ているのは、仮親と子ども達だけです。ではそういう方が講師で来て、本町の事業を実際に具体的に説明する、良い悪いという話もする、当然委員会の発表もする、そういう中で、最後のこのパネルというものが、非常に重要になってくると思うのです。ただこれをやりますと言っただけで、そこまで果たして委員会で実際に考えているかどうかというのが非常に疑問です。そこを伺いたいのです。

齊藤室長

今回の例会は、ホームステイについてということだけでは、勿論ありません。このホームステイ事業はあくまでもモデル事業であります。勿論会場には先ほどご説明したパネルは設置いたしますが、この例会終了後、特記事項にもあります通り、今回のホームステイをマニュアル化して、札幌市や、市内の全208校に配布いたします。それはただマニュアルを配るという単純なものではなく、今後こういったホームステイ事業を、是非市民の手で行えるように、どういった点に注意しなければならないか、どういった効果があるのかを、DVDにして、皆様にお渡ししようと考えております。ですから、地域ホームステイにJCメンバーがそんなに関わらないのではないかという所も、まさしく今後この事業を広めていくために、JCメンバーがファシリテーターとして大きく関与するのではなく、

市民主導でこの事業を進めていくことが大事であると、委員会メンバーも考えておりますので、そのような取組みをさせていただこうと考えております。

伊澤理事

あまり市民にまで突っ込んだ話はしません。ただ、パネルを置いておくだけとか、それだけに終わらせることが無いようにしてください。せめて委員会メンバーがその場に立って、来る方々に説明するぐらいしないと解りません。ここの作りこみを、実施の日まで、しっかりと考えてください。

松井理事

17番の(2)、八月例会①、マニュアル化し、DVDを作成し、とは、予算ではどれですか。DVDはどうするのですか。

齊藤室長

予算にある中で、⑤マニュアルDVD制作費15万円というところですが、申し訳ございません、単価が記載されておりませんでした。単価500円×300枚のDVDを作成し、配布させていただく所でございます。こちらの300枚の根拠でございますが、札幌市内にある小学校208校と、教育関係者を含め、概ね280前後と考えております。そして市民からも、もしかしたら欲しいという方が居るかも知れませんので、300枚という数字を挙げました。こちらについては、後ほど記載いたします。

松井理事

記載した方が良いですね。解りませんから。DVDだけ配るのでしょうか。

齊藤室長

映像だけではなく、紙ベース、PDFという形の資料も含めて、また、写真も入れる予定でございます。

松井理事

いつ配るのですか。今後が大切だと思ひましてしつこく聞きますが、これを例会終了後というのは、事業の流れの中で、例会が終わって、2日に礼状を発送して、9月29日に報告上程を上げてとなっておりますが、それだけではなく、ここの内容が大事ですから、事業の流れの中で、いついつにこれをするというように、日程まで入れた方が良いと思います。多分委員会の中では決まっていると思いますので、そこまでしないと完結しないのではないのでしょうか。

齊藤室長

事業の流れにつきましては、報告上程に、配布日を記載させていただこうと思います。よろしいでしょうか。

岸田理事

ホームステイチラシは、完成版ということでよろしいのでしょうか。

齊藤室長

この審議上程が終わりまして、修正点があれば修正いたします。

岸田理事

今見ると、例会チラシは表裏、ホームステイチラシは裏だけが出来て表はまだ、という感じでしょうか。それとも裏は白紙というものなののでしょうか。

齊藤室長

両方とも表裏でして、空白の、裏が無い所については、仮親の募集等を入れまして、完成といたします。

岸田理事

意見ですが、ホームステイに関しては、チラシが、募集をする上で、非常に解り難くて集まらないのではないかと思います。目的は入っていますが、実際これに参加させることによって、どういうプランの日程で、どういう時間帯で、そこで何をするのか、そういったスケジュール関係が全くありません。ただ目的があって、プランが無い。実際には何をするのだろうというところで、これを見ただけでは判断出来ないということがあるのではないかと、という事が一つ。また、プランがあって、次になればならないのは成果だと思います。実際、他県でのデータがあるのであれば、こういう子ども達がこういうように変わった、とか、親が困っていること、例えば言う事を聞かない、自律性を持っていない、ゲームばかりする、落ち着きが無いなど、色々なことが挙げられると思いますが、そういう子ども達が、行って帰ってきたら凄まじく変わっていた、ご飯の後、食器を片付けた事など無かったのに、片付けるようになったとかの結果があれば、より解り易いのではないかと思います。例会用チラシですが、他の理事者からもあった通り、実際、安永愛香さんという健康そうな、爽やかな感じの女性というイメージはありますが、この方のデータを見た中で、関東では有名かも知れませんが、北海道では多分誰も知らないですよ。実際この人は何なのだということで、500名募集しておりますが、この人の講演を聞くために500名集まるのかという所が疑問です。書いてあることは、殆どクエスチョンばかりです。例えば、将来の日本を「キレル大人が少ない社会」にするためには？とか、問いかけが多いのです。ですが、この人が実際何をしてきたかという所に対しては、具体例が載っていないので、ただ、安永愛香氏が語る、今必要な子育てのあり方、その教育方針に注目、と言っても、中々何に注目したら良いのか解らない。逆に、最近テレビでやっていますが、幼稚園児が跳び箱12段を跳ぶとか、この幼稚園に行けば、小学校に上がるころには英語スラスラだとか、そういう成果として現れているものを具体的に記載した方が、より講師としての選定理由も理解出来るし、また、募集するにあたっての人数も勘定出来るのではないかと思いますので、そうしていただければと思います。

齊藤室長

すぐ刷るという訳ではございませんので、本日いただいた意見をふんだんに盛り込んで、皆さんが解るようなチラシにいたします。

玉腰理事長

チラシに関しましては、審議資料ではなく、参考資料に変更し、皆様に納得していただけるものにいたします。ご理解いただきたく思います。

【採決】

満場一致で可決。

(4) 2010年度(社)札幌青年会議所 第24回国際アカデミー誘致立候補(案)の件
岡澤専務理事

資料に基づき説明。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

(5) 2010年度(社)札幌青年会議所 六月「臨時総会」開催(案)の件

白井常務理事

資料に基づき説明。

【予算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

(6) 2010年度(社)札幌青年会議所 2011年度理事長予定者選任(案)の件

岡澤専務理事

本日は馬場委員長に来ていただいておりますので、選考会の経過報告をお願いいたします。

馬場委員長

2011年度(社)札幌青年会議所、理事長予定者選任(案)の件につきまして、経過報告をいたします。立候補の届出期限が、本年度の5月12日午後から、5月19日の正午まででしたが、立候補の届出はございませんでした。よって、役員選出規定第5章第21条第1項に記載されていますように立候補者がいないとき又は第18条の規定による投票の結果当選者が決定しないときは理事会が候補者1名を直ちに推薦しなければならないという条項が適用される事をご報告させていただきます。

岡澤専務理事

それでは、推薦者の決定方法につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

池崎理事

理事長一任でよろしいかと存じます。

岡澤専務理事

拍手を以って全会一致で承認されましたので、玉腰理事長、推薦者をお願いいたします。

玉腰理事長

本来であれば、私から被推薦者の人となりだったり、やる気だったりをお話しさせていただくところではございますが、そちらは皆様ご理解しているということで、早速ではございますが、私から、推薦させていただきます。2011年度(社)札幌青年会議所、第60代理事長に、北嶋仁君を推薦させていただきます。

岡澤専務理事

玉腰理事長より、北嶋仁君の推薦をいただきました。北嶋仁君より、ご承認いただけるかどうか確認いたします。北嶋仁君、いかがでしょうか。

北嶋副理事長

謹んでお受けいたします。有難うございます。

岡澤専務理事

人事案件ですので、拍手にて承認をお願いいたします。全員一致にて、承認されました。それでは、次年度理事長予定者であります、北嶋仁君から、一言ご挨拶をいただきます。

北嶋次年度理事長予定者

皆様改めましてこんばんは。只今、玉腰理事長よりご指名をいただきました本年度副理事長を仰せつかっております、北嶋でございます。2004年に、この札幌青年会議所に入会させていただき、今日まで様々な、そして多くの人のお世話になって参りました。時には本当に叱咤激励され、そして時には心から支えていただき、また支えて来たつもりです。そんな大好きな札幌青年会議所を、そしてここに集うメンバーに対して、自分の残りのJCライフを以って、一体何が出来るのだろうと、ずっと考えておりました。今回、このようなチャンスをいただきましたことに、心から厚く御礼申し上げます。

皆様ご承知の通り、来年我々札幌青年会議所は、60周年という大きな節目の年を迎えます。人間でいけば還暦にあたります。その時に着る赤い衣服は、再び生まれた時に還る、つまり第二の人生へ旅立つ、そういう意味があるそうです。今年で戦後65年、そして来年この札幌青年会議所は60周年、時代も、我々を取り巻く状況も、情勢も、そしてそれに伴う我々の運動も、本当に大きな一つのサイクルを経て、また新たなサイクルに入る、そんな年だと感じております。ただ、我々の運動の原動力は、いつの時代も、どんな時代も、志を同じうする仲間との絆であり、無言の信頼であります。今日まで、この札幌青年会議所を築き上げてきた、多くの先輩諸兄の崇高な志、そして卒業して、いくつになっても、あたかも昨日のここのように、自身のJC物語を語る、そういった熱い、消えぬ想いであるはずで。そういった想いを受け継ぎ、それを踏まえた上で、メンバーと共に、来年、これからの未来へ向かっての運動展開を目指して参ります。この大好きな札幌青年会議所、このメンバーと共に、60周年という節目の年と一緒に体感出来る、その事に感謝しながら、また自分自身、全メンバーに対して、信頼と感謝の気持ちを持って、我がまち札幌のため、そして未来を担う子どもたちのために取り組んで参ります。

今後とも皆様方よりご指導、ご協力、また叱咤激励を頂戴することをお願いすると共に、自分自身、全力でこの職を全うすることをお誓い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。来年一年間よろしくお願いいたします。有難うございました。

岡澤専務理事

続きまして応援メッセージを、鈴木監事よりお願いいたします。

鈴木監事

まずは、理事長という大役を担われる決意をされましたこと、そのご英断に敬意を表したいと思います。理事長になるという決意をしたら、こんなに素敵な挨拶が出来る人だったのだと、今改めて聞き入っておりましたが、あまりにも素敵なお挨拶をされていたも

のですから、茶化すのは止めようと思います。北嶋次年度理事長予定者とは、委員会で同じ活動をしたことはございません。ですが、何かとウマが合ったのか、応援メッセージということで、つい2、3日前にご連絡をいただいた時も、喜んでお引き受けいたしました。私は北嶋仁君という人間が好きです。何がと言いますと、We Believeを見ていましたら、北海道の中では網走JCさんと石狩JCさんが100%例会を達成したという記事が出ておりましたが、近年中々無かった100%出席の委員会を昨年なされたのは、当時の北嶋委員長でした。スケールが大きいというか、きっと周りに居る皆も、こんな男の楽しさに引き込まれて、委員会に出席するようになっていったのだと思います。昨年一緒に委員会をなされた太田委員長や東委員長のところも、一生懸命今日上程されておりましたが、素晴らしい事業になるのではないかと思います。河合継之助が、無くてはならない人間か、あってはならない人間になれると、そんなようなことを言っていたかと思います。来年が60周年という節目の年です。この青年会議所になくてはならない、そんな重責を担うのは、この北嶋仁君だと思います。私からの、彼への応援を皆様をお願い申し上げ、私のメッセージといたします。

玉腰理事長

たった今皆様からご承認をいただきました。(6)2010年度(社)札幌青年会議所2011年度理事長予定者選任(案)の件を、これにて終了いたします。

(7) 2010年度(社)札幌青年会議所 退会者(案)の件

岡澤専務理事

資料に基づき説明。

【意見・対応】

なし。

【採決】

満場一致で可決。

(8) その他

削除。

12. 協議事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 八月「臨時総会」開催(案)について

大越委員長

資料に基づき説明

【予算確認】

白井常務理事

勘定科目、金額共に適正に処理されております。

【意見・質問】

なし。

玉腰理事長

8月の臨時総会は、次年度理事長が正式に決定される大切な会です。一人でも多くのメンバーにお集まりいただければと思います。以上です。

（２）２０１０年度（社）札幌青年会議所 九月「札幌の近未来創造」例会開催（案）について

東委員長

資料に基づき説明

【予算確認】

白井常務理事

企業協賛があるということで、雑収入として企業協賛収入を記載しております。その他勘定科目、金額共に適正に処理されております。

齊藤室長

オーガニック野菜に関しては、無かった分野ではございますが、今後、食文化や食のブランド力を向上させるために必要な部分です。今、需要はあるが生産は追いついていないという状態です。オーガニック野菜を通じて、食ブランドが広がり、札幌のブランド力が向上することを目指します。

【意見・質問】

齊藤理事

質問です。非常に夢のある、というか、ワクワクするような事業です。当日沢山のファンクションがあるように見受けられるのですが、どの部分をＪＣが行なうのかが解らなかったというか、全体をＪＣがプロデュースするのか、それぞれのブース、ファンクションにＪＣが主体的に関っていくのかが見え辛いのです。おそらく全部に主体的に関っていくと、とてもまかないきれない規模になってしまうと思いますので、どこからどこまでが委員会で行なう部分なのかお聞きしたいです。

東委員長

まずブースについてですが、ファーマーズマーケット、これに関してはトライビーという会社がやっておりますマルシェジャポンとの提携、協力をいただきながら行います。具体的には、マルシェジャポンでテントをご用意いただいたり、過去の経験からいろいろとアドバイスをいただいたりします。ここに出店する農家は我々が探してくるということでございます。試食ブースでございますが、これは完全に我々ＪＣで行おうと思っております。野菜を切って塩をつけて、通行人にお配りして、味の違いを感じていただくというものです。就農支援ブースでございますが、こちらは、講師にも名前が上がっております笛木さん、北海道の有機農家の中心的人物でございまして、有機農業協同組合を立ち上げた人物でもございますが、非常に多くのノウハウをお持ちですので、こちらに関しては笛木氏のご協力をいただくということになろうかと思います。企業協賛ブースにつきましては、完全に我々で集めて参ります。進行の中では、講師の講演、それからトークショーということでございますので、講師の方をお呼びします。

齊藤理事

非常に広がりがあるというか、自分たちで行なうこともありつつ、色々な団体さんもあ

り、多くの市民と繋ぐ役割をＪＣがするのだということが見えるので、是非頑張っていたきたいと思います。心配な点として、外で行なうので、雨が降った時に大丈夫かということがあります。ステージなど、雨天対応型のものを検討しているのでしょうか。また、あまり広い所ではないので、安全面が心配です。トークショーが立ち見ということですので、大勢集まると事故になってステージが一時中断になってしまう等あるかも知れませんが、ご注意ください。

東委員長

保安上の問題につきましては、十分に検討し、事故の無いように気をつけて参ります。雨天対応につきましては、まずファーマーズマーケットにつきましては屋根付きテントでございますので、問題は無いと考えております。ステージにつきましては、雨天でも行いたいと考えておりますので、雨が降っても大丈夫な仕組みを考えて参ります。

池崎理事

有機野菜ですが、物を提供する事業ということで、量の確保は大丈夫なのでしょうか。

東委員長

先ほど申し上げましたように、笛木氏が中心となっておりますので、数多くの有機ＪＡＳ認定農家というものがお知り合いということで聞いております。従いまして、出店に関しては何ら問題が無いと思います。かつ、オーガニック野菜の１軒当たりの用意可能量は限られておりますので、交代で出ていただくなどを検討していただいております。いずれにいたしましても、量につきましては問題無いということです。

池崎理事

マルシェジャポンさんは事業仕分けにあったと思いますが、それは大丈夫なのでしょうか。

東委員長

昨年まで国の補助金が入って運営しておりましたが、今年からは無いということで聞いております。北海道におきましては、北海道新聞社の子会社のトライビーが中心となっておりましたが、実はマルシェにかかる費用というものは限られておまして、最初にテント等を用意してしまえば、後は、運営費は殆どかからないという情景でございます。今回も出店者からは売上に応じた手数料をいただくということでやっていく予定でございます。来年以降、トライビーが手放すかどうかは解りませんが、その辺も含めて確認いたします。

荒木副議長

農協など既存の多くの流通を持つ団体から圧力などが予想されないでしょうか、というのが第５回常任理事会の意見であるのですが、その対応で、農林水産省も生産者と消費者の直接のパイプ作りは必要であると考えている、とあります。これは本当なのでしょうか。何故かと言いますと、農林水産省が、国で行っている組織として、市場というものがある訳です。おそらく市場を通すものは安心安全な食材であると、オーガニック野菜でなくても、そういうことをおそらく言っていると思います。オーガニック野菜が市場を通るかという部分は、若干はあると思います。この記載によると、市場は要らない、という事を国が推奨しているように捉えられるのですが、どうなのでしょうか。

東委員長

新聞報道等でも目にした方はいらっしゃると思いますが、現在現実的に、政府といたしましては、6次産業化ということをテーマに推奨しております。既存の規格の製品、農産品というのでしょうか、農協を通したものというのは、決められた農法に従い大量生産され、規格化して、大量に市場に流すというビジネスモデルであった訳ですが、農家があまりにも農協に頼りすぎる、そういう所から、良くないのではないかという動きが出ており、有機農産物に対する視線が積極的になっているところです。私は実際に北海道と札幌市にも伺いまして、国からの指針の資料や、色々なものをいただいて参りました。先ほど言いましたように、規格品はそういうことですが、オーガニック野菜というのは、いわゆる少量多品種、大量生産は出来ません。腐りやすいですし、同じものが大量に出来る訳ではありません。ですから、今とは全く違う分野のものであると考えて構わないのではないかと思います。先日、JAさっぽろさんにお邪魔いたしまして、そこの幹事の方、経済部長の方とお話させていただきました。色々なご意見をいただいたのですが、農協もいつまでもオーガニック野菜から目を背ける訳に行かないので、協力しますとお話しをいただいております。そういった状況でございます。

荒木副議長

おそらく農協はそうに言うと思います。野菜でなくても、私がやっているような花でも、消費者にいい物を届けたいから、市場関係無しに取引しようということがあると思います。大手スーパーでも、おそらく市場を通っていないものが流通しているという部分は、往々にしてあると思います。その中でオーガニック野菜というものがどうなのか、という所もあると思いますが、私が市場と絡んだ時には、市場を通るものは安全安心な食材だと。その頃、食の安全が盛んに言われていたものですから。そういう定義付けをしてくれということで、市場とお付き合いしました。市場外流通が良い、悪いという話ではなくて、その辺も委員会で詳しく調べていただき、道が言うから、市が言うから、という話ではなく、その辺もしっかり落とし込んだ上で行わないと、おそらく後で、こんな事を札幌青年会議所がやっているという話になれば、非常に困ると思います。ですので、充分注意していただきたいと思います。時間がありますので、もう一回、その辺も綿密に調査していただいて、やっていただきたいと思います。もう一点、池崎理事からもありましたが、食に関することをすると、食中毒のことだとかを非常に気にされていて、地域の方々も、もしそういう事が起きたとすると、どう対処するのかという所を、非常に問題視すると思います。その辺はどう対処するのでしょうか。

東委員長

食中毒に関しては、生の野菜かつ朝取ったばかりの野菜を切って出すという状態でございます。特に多く出すのが、水菜でございます。一番味に違いが出るという事だそうですが、おそらく、新鮮な生野菜で食中毒というものは、なかなか考えにくいと思いますが、しかし今いただいた意見をもう一度きちんと考えまして、次回に臨みたいと思います。

荒木理事

厳しい言い方になりますが、そういう楽観的な姿勢から事件に繋がる可能性が大いにあると思います。出店される方も沢山いらっしゃると思いますので、その辺も検討して、充

分注意を払った上で行わないとまずいと思います。私も2008年度にファクトリーで、ほくでんさんの敷地をお借りして食に関するイベントを実施いたしましたが、その時、食中毒に関して、会場から食材を外に出してはいけないと、口を酸っぱくして言われました。何故かという、万が一にもそのようなことがあったとしたら、ほくでんとしても会場を提供した責任がありますから、ということでした。それが守れなかったら会場は貸しません、というくらいの勢いでした。ですので、委員長の発言が楽観的なものなのかどうか解りませんが、その辺は十分注意を払わなければ、委員会の責任どころではなく、札幌青年会議所の責任問題にまで発展しますので。気をつけていただきたいと思います。

伊澤理事

確かに保健所の許可が要るはずなのですが、その辺はどう考えているのでしょうか。JCとして出すのか、出店する方々が個々に出すのでしょうか。

東委員長

道路の許認可に関しましては、札幌大通りまちづくり株式会社が行います。かつ、上程にも記載いたしましたが、実行委員会を組織してやって行きたいと思います。直接JCがするというよりも、実行委員会の中で、まちづくり会社が担当してやっていくということになります。

伊澤理事

もし保健所に申請して許可を取るということでしたら、実行委員会形式だと、まず間違いなく許可は出ないと思います。正規のイベントでも、例えば商店街の振興組合とか、町内会とかですと保健所は許可を出すのですが、なんとか実行委員会が主体となっている時に許可を出すということは、殆どしないはずです。JCでやらないのであれば、まちづくり運営会社を通して行うことで、もしかしたら許可が出るかも知れません。少なくとも実行委員会では対応するという事は、非常に難しいと思います。先ほど荒木理事がおっしゃっていたとおり、食のイベントにおいて食中毒は非常に恐ろしいものです。安全安心を売りにして事業を行うのですから、食中毒への対応をどうするのかということを、委員会できっちりと調べてください。それと、この上程書を読む限り、オーガニックというものに対して、皆さんにPRするのだという所に、かなりの重点を置いた書き方になっています。皆にPRするというのも大事ですが、一つ知っていただきたいのは、本当に良いものは何かという所を見る目を、消費者に養って貰うことです。その視点が無いと、本当にこれは良いですよと言っても、選んで貰えないと思います。その視点をもう少しこの事業に対して向けて欲しいのです。具体的にそれをプログラムとして落とし込め、ということにはありませんが、消費者にもしっかりと勉強して貰う、自分で自分の食べ物を選ぶ、あれがあるから安心だ、このブランドだから安心だ、そういった視点も、是非委員会で考えてください。

東委員長

しっかりとその辺りを考えて参ります。

小田切理事

内容は面白いのですが、例会当日でいくと、オーガニックをブランドとして広げて行きたいという訴えかけが、講師だけでは弱いのかと思います。ブースなり発表なりを入れた

方が良いのではないかと思います。これがあって次にどう広めていくかという所だと思いますので、ただ祭りでブース出店をして終わってしまうと思います。実行委員会で引き継いでいくのは良いのですが、ブースなり発表なりを入れなければまずいと思いますし、あとは、審議までまだ時間はあります。スケジュールの中でも、結局、実行委員会立ち上げといった予定は入っておりません。立ち上げ時期等も入れていただいて、この事業自体も委員会ベースで実行委員会へと繋がって行くので、その部分もスケジュールに入れて、実際に立ち上げて、やっていって、報告の時点でどういう形で実行委員会に引き継げたか、広めていけるかと揉んで欲しいと思います。また、当日のスケジュール、時間が途中で戻っていますので、精査してください。あと、トークショーが55分とあるのですが、二人で結局保つのか、先ほど言いましたこととリンクする部分なのですが、訴えかけの部分で委員長が入るのか、理事長が入るのかという部分もあります。長谷川さんは、あの女性のタレントさんだと思いますが、集客が、祭り自体で多いものですから、会場の混雑具合も予想して設営していただきたいと思います。それとチラシの配布について、祭りの実行委員会自体でも広告を打つなどすると思いますが、我々として1万枚刷るといった部分で、配付先リストなどを審議では付けていただいて、次回審議に上げていただきたいと思います。意見です。

東委員長

様々な視点から、貴重なご意見有難うございます。しっかり委員会内で揉んで、次回ご納得していただけるようにしたいと思います。

松井理事

何故ここで、これをするのでしょうか。読んでも伝わってきません。人が来るから乗っかるのだ、というか。シャワー通りというあの様な狭い所で、講演に立つのが辛くないのでしょうか。問題無いとありますが、しゃべっている方が可哀想だと思います。椅子も無ければ、通りすがりの人も立ち見で、やっている意味が無いと思います。スピーカーで流しているのと一緒に、何のために講演をしてもらうのか、話を聞いて貰わないと、現実的に2時間立ち見をする人は居ませんし、真剣に聞かないです。そもそもなぜここでやるのか非常に疑問です。

東委員長

場所につきましては、少しでも多くの市民にオーガニックに触れていただきたいというところからです。2時間立ち見ということに関しましては、講師の講演とトークショーと二つございますが、確かに2時間ずっと立ちっぱなしというのは若干辛い所もあるのかなと思います。しかし、横にファーマーズマーケットがあったり、試食のコーナーがあたりと、短い時間の中でも、少しでも多くのものに触れていただきたいという意図も実はございます。ですが、今いただいたご意見をしっかり受け止め、考えて参ります。有難うございました。

齊藤室長

2時間立ち見であったり、この場所であったり等については、東委員長からもありました通り、もう一度考える所ではございますが、例えば2時間という時間を、もう少し広げて、4つのブースを同時に開催するのではなく、1つずつ開催するとかの色々な手法を委

員会で考えて参ります。よろしくお願いいたします。

松井理事

それは良いのですが、何故シャワー通りに拘るのでしょうか。どうやってやるのでしょうか。そこに椅子を並べるのでしょうか。70万円かけて講師を呼んで、2時間立ち見で流すような形でやる事が青年会議所のやる事でしょうか。ただ単にそれは広告代理店がやるイベントではありませんか。何のためにやるのかが青年会議所だと思うので、そこはちゃんとやっていただかないと。人を呼ぶために、ついでと言ったら申し訳ないですが、ここでやる、というようにしか見えないのです。もう少し真剣に考えて貰った方が良いです。また、上程書の15の3、実行委員会を立ち上げる予定です、という所ですが、上程書に「予定です」は無いと思います。そこまで仕組みを作ってから上程書を出してください。予定は未定で、何もなかったらどうするのでしょうか。スケジュールはどうなっているのですか。やりたい事は解るのですが、もう少しやりたい事を詰めて出していただかないと、今の委員長、室長のお答えは答弁にならないと思います。

北嶋副理事長

まず実行委員会の件ですが、内々では承諾をいただいております。協議に出す前に実行委員会を作ってしまうと、それこそまずいだろうという事で、協議で一度皆様にご披露してから、この後すぐ、審議までに実行委員会を立ち上げて参ります。内諾はいただいております。シャワー通りで何故行うのかという件ですが、そもそも単独でこの事業を行った場合、この木村さんと言う方も、実はかなりの集客力のある講師の方なのです。ただ、この方を単純に呼んで、ホテル等で仮に行った場合、来場される方は、オーガニックに興味のある方になると思います。我々は、市民に広くこのオーガニックを知っていただきたいのです。ということで、このだい・どん・でん、二日間で15万人集めるイベントでございます。出来るだけ広く、オーガニックに興味の無い方にも、この良さを発信していきたいと思ひまして、その効果を狙って、大イベントとリンクさせていただければというように思っております。2時間立ち見というのは、確かにその通りでございますが、あくまでこのシャワー通り、だい・どん・でん横の歩行者天国で、その集客を見込んで、やらせていただきたいと思ひます。時間配分等は調整させていただきます。

松井理事

この、だい・どん・でんというものが解りません。何をするのですか。

東委員長

大道芸人が集まって、路上でパフォーマンスをするイベントでございます。

松井理事

札幌オーガニックフェスタ2010と全然関係ないということですね。いや、イメージとして、皆さんシャワー通りを知っていると思うのですが、そこで伝わるのでしょうか。この上程書ですと厳しいですね。

岡澤専務理事

場所や時間配分につきましては、もう一度委員会に持ち帰らせていただきまして、次回審議上程したいと思ひます。副理事長もよろしいでしょうか。

松井理事

だい・どん・でんの件は、考えた方がいいと思います。全然関係ないと思います。

東委員長

内容に関しましては、確かに関係ございません。その辺りもしっかり上程に反映させて参ります。

熱田理事

企画立案の段階から、そのまちづくり会社の方とか、オーガニックの団体の方とかと打合せていった中で、そのまちづくり会社の方々も、近年立ち上がった団体なのですが、大通の活性化に繋げ、札幌の近未来を考えて行ったところ、たまたま大通のその会場ということになったのです。また、だい・どん・でんに目が行ってしまうと思いますが、日程的にはオータムフェストの前で一番いいタイミングであろうと考え、7月の例会を9月に持って行こうという委員会の意見で、そうなったという経緯があります。出来れば理事者の方々にも、その辺りをご理解願います。

岡澤専務理事

担当委員会としては、2008年のまちづくりフェスタで行ったように、オーガニックを含め、様々な安心安全な野菜を知って貰おうということで、多くの人を訪れるだろう中心部で行いたいという意図は充分私には伝わっております。ただし、松井理事からもありましたとおり、もう一度委員会にて検討していただきたいと思います。

松井理事

人を集めるのはいいのですが、地図を見ても、端に追いやられているように見えるのです。皆さんに伝えたいというのは解りますが、ついでにやっているように見えてしまうので、もう少し努力して欲しいと思います。出来ないかもしれませんが、100万円以上もお金をかけて、3人も講師を呼んでいますので、精査してください。

齊藤理事

就農支援ブースというものがありますが、講師の話が就農に関する事だということで、リンクしているのは解りますが、初心者には敷居が高くないかなと思います。ブースの中でカウンセリングするというような記述が見つかりませんでしたので。家庭菜園などを補助するような、ホップからジャンプではなくホップステップジャンプ。初心者からいきなりプロになる人は居ないと思いますので、ワンクッション挟むようなブースであれば良いのかと思います。それが協賛ブースの中にあるのか解りませんが、いきなりプロになるのはきついと思います。ワンクッション置くようなものは、何か考えていますか。

東委員長

就農支援ブースで行う内容ですが、笛木氏の講演を聞いて、就農に興味のある方を集めるブースという意味でございます。ここである程度の説明をした上で、受付をして、笛木氏が畑を持っておりますので、そちらへ本当にやる気のある方を連れて見学し、実際に行っているところを見て、もしそれでもやりたいようであれば、実際に研修に入ってもらえます。最低半年の研修を経て、資金的な裏づけも出来た段階で、実際に就農していただく、そう言った趣旨でございます。ですから、家庭菜園等を後押しするような趣旨のものではなくて、就農を目的としております。ここは人を集めて説明するブースということでお考えいただきたいと思います。

齊藤理事

それでは私は行けませんね。プロになるという意思が無いと、そのブースには怖くて行けないと思います。体験してみませんか、という形なのかも知れませんが、ちょっと庭で気軽に有機野菜を育ててみたいという人には、ちょっと難しいという気がしますので、例えば企業協賛のブースで野菜の苗を売ったり、種を売ったり、家庭菜園の仕方の本というようなものを置いたりすれば、農家になろうかということにもなると思うので、いきなりプロというステップの前も考えていただきたいと思います。

荒木副議長

講師の安全安心は、我々でも考えているのでしょうか。講演で長谷川理恵さんと呼ぶと、いつもの厚生年金会館だとか教育文化会館だとかであれば、それはそれでいいと思いますが、路上で講演をということであれば、その点も危惧しなければならないのではないかと思います。長谷川理恵さんだけではありませんが、他の講師もそうですけど、人が集まるということは、それだけ危険も多くなるということだと思いますので、その辺はどう考えていますか。

東委員長

その辺りにつきましては考えております。まずビルに囲まれているということから、ビルには必ず裏口がございますので、そこから観客と触れ合わない形でスムーズに出入りが出来るというように、警備体制をメンバーで整えて行きたいと思います。

荒木副議長

裏口は解りますが、それだけではないと思います。裏口から出てきてそれでいいという話では無くて、実際人目が触れる時に、どういうように青年会議所で考えるのか。何もなければ良いのですが、何かあった時には、最悪の事態のことも考えながら、いつも事業をしているという事は、委員長も解っていることだと思います。屋外でするという事業については、今までもそうだったと思うのですが、よっぽどのが無い限り、今までの委員長はこういうことを危惧してやってきたと思います。その辺も含めて、今すぐとは言いませんが、審議上程までには、そういう細かい点まで考えた上で上程を出していただきたいと思います。その辺は意見を貰う、貰わないではないと思います。この協議段階で、そういうことがきちんとなっていて、実行委員会を立ち上げる前でも、そういう事も考えた中で、先ほどの食中毒の話もありましたけれども、事前に、こういうことをするという話であれば、そういう所はすぐ出てこなければならないと思います。その辺も充分気をつけていただきたいと思います。

東委員長

講師に内々に依頼をした段階で、これは口をすっぱくして言われた事でございます。でするので、今いただいたご意見の通り、次回審議までにしっかりと詰めて、万が一の事も絶対に無いように、設えを考えて行きたいと思います。

伊澤理事

先ほど言い忘れましたが、松井理事がこの会場に非常に疑念を抱かれているというのを踏まえて、この会場で行うのであれば、もう少し詳しく、お客様をどういう形で動線として引っ張るのでしょうか。だい・どん・でんというイベントの脇で、知名度のまだ低いシ

ヤワー通り、多分そこでやってくれという要請があったのだと思います。そうしたら、だい・どん・でんに集まっている一般のお客様をどう引っ張ってくるのか、その動線も考えて、全体の会場の配置図を、次の審議に出していただきたいのです。当然、だい・どん・でんと違う、これは別の行事なのだというので、今説明がありましたから、装飾等もしなければならないと思います。具体的なイメージも、出来ればイラストレーターか何かで、目に見えるようにしてください。ステージの話も出ていますが、この狭いスペースを有効に利用するためには、本当にステージを作る方が良いでしょう。マルシェというものは、多分フランス発祥だと思いますから、現地に行って調べるという訳にもいかないと思いますが、こういった雰囲気で行っているのだろうか、こういったスタイルで皆さんに参加して貰いたいのか、ということも踏まえて、設えを考えてください。

東委員長

動線、配置図、その他具体的な事に関しまして、次回審議までに、しっかりと皆様に見ていただけるようにしたいと思います。

玉腰理事長

この事業に関しては、題材がオーガニック、生産、消費、流通、この三つが噛み合って初めて広がるという部分で、非常にやりがいもあるし、また、ハードルも高い、そういう部分に、委員会で非常に考えているというのも解ります。それも解った上で、今回理事者からいただいた意見を、更に委員会で揉んでいただいて、委員会として全てを取れる、それ以上に最高なことは無いと思いますが、これだけは外せないというものをもう少し考えないと、上程があまりにも盛り沢山になり過ぎていて、非常に厳しいのかと私も見ております。その辺も踏まえて、次回審議の際には、なるほどと言わせるような設え、上程にしていいただければと思います。楽しみにしております。以上です。

(3) その他

削除。

13. 報告事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 委員会費中間決算実施について

白井常務

資料に基づき説明。

(2) その他

14. その他

(1) 仮入会者の登録承認について

荒木副議長

資料に基づき説明。

(2) 会員募集進捗状況

荒木副議長

川口事務局長

資料に基づき説明。

(3) 今後のスケジュール

白井常務

次回理事会：6月28日（月）

6月3日～6日ASPA C（シンガポール）

6月9日臨時総会（かでの2・7）

6月11日創立記念例会（パークホテル）

6月15日常任理事会 上程提出締切日（14日から変更）

6月18日常任理事会／事務局（17日から変更）

(4) その他

佐々木直前理事長

ご挨拶にて若干お話しさせていただきましたが、来月6月20日、道央エリア交流事業が開催されます。そのPRにつきまして、本年度道央エリア運営会議にて、大変ご活躍いただいております熱田議員から、PRさせていただきます。

熱田理事

2010年度J1グランプリ2010第1戦とありますが、第1戦しかありません。6月20日に、千歳にて開催いたします。先ほど鈴木監事ともお話しさせていただきましたが、おそらく2004年以来開催されていないと思います。2001年か2002年にもやったのではないかとこの所がありますが、近年、メンバーが入れ替わりまして、おそらく千歳でカートをされるのも初めての経験という方が、結構多いのだと思います。また、道央エリアには、各委員長の皆様から新入会員をアカデミー塾生として出向いただきまして、アカデミー塾対抗なども予定しております。また、正式ではありませんが、2年目、3年目の交流を図るために、当時のアカデミー塾生とチームを作ったり、LOM対抗したり、という事も考えております。さらに、理事長戦というものもある、という話まで聞いております。まだ決まっていないようですが、是非、札幌を代表する玉腰理事長には1位を取っていただきたいという事も含めまして、100%例会ではありませんが、100%に近い出席を、札幌青年会議所の皆様をお願いしたいと思います。玉腰理事長率います札幌青年会議所は、千歳の地でも出席率が高いということで、私たちに自慢させてください。LOMには無い会員交流事業でございますので、よろしくお願いいたします。

伊澤理事

創立記念例会の特別会員への案内状の件とブルーアース基金審査委員会のご案内の件です。先日、橋本毅先輩から、きつくお叱りを受けました。端的に言うと、何故今の現役は、筋を通して物事を進めないのかと。何故丁寧に事に当たってくれないのかと。その2点です。今、事務局長が会員募集の件について、数字を出して、この理事会で報告をいただいた訳ですが、各委員会には、先般、特別会員の名簿というものが流れているはずですが。特別会員の皆さんのところに足を運んで、情報を何とか我々現役の方にお寄せいただきたいという願いをするために、そういった名簿を会議体から委員会に回していたはずですが。

意図はそこだと思います。では我々の通うべきところは、まずは一番身近な、我々の応援団である特別会員の皆さんです。ただ特別会員の皆さんというのは、我々に一番身近な所ではあるのですが、一番身近な一市民でもある訳です。そういった方々に対して筋を通さない、礼儀を尽くさない、丁寧な対応が出来ない、それが二度も続けて起こったという事は、我々自身が我々自身の首を絞めているということに等しいのです。何故そういう事が起こってしまったのか。本当は個々の事象について、何故そうなったのか説明を求めたいのですが、今オブザーバー出席でいらっしゃる数名は、少なくとも今後この札幌青年会議所の屋台骨を担う皆さんだと私は思います。我々の味方である特別会員の皆さんに対して、擦り寄るという事ではありません。ゴマをするという事ではありません。少なくとも、現役に対して、もっと面倒を見たいのだという特別会員の皆さんがいらっしゃるのです。その人たちを敵に回すような真似だけは絶対にしないでください。何故そういう事が起こってしまったのか。周りの皆さんが一番良くご存知でしょう。そういう事実がまだあるのです。何をしなければならないか。自分たちが物事に当たるために、どうしたら相手に対して解って貰えるのか、また、我々の応援をして貰えるのか、という事をしっかり意識してくれれば、そう言ったことは自ら防げると思います。こんなことを言うてくださるOBがまだいらっしゃるということは非常に有り難い事です。普通だったら、わざわざ現役に対して叱り飛ばす人は多分居ないでしょう。ただ、我々の居ないところで、今の現役も地に落ちたなど、噂を広げられるのが普通だと思います。我々は常に、皆に伝えるという事も必要ですが、見られているという意識が無いと駄目なのです。先輩諸兄が59年間に渡って築き上げてくださったからこそ、札幌青年会議所への信用があり、また魅力を感じて、じゃあこういった人間を紹介しよう、是非JCに入って頑張ってもらいたいという声が起こるはずなのです。我々自身が一生懸命会員開発を頑張っているのであれば、我々自身がきちんとした形で特別会員の皆さんに、今の札幌青年会議所には、魅力がこんなにあるのですよということを示して行かなければならないのです。案内を出すのが遅れて、今更出しても仕方が無いから、このまま握り潰してしまうのか、一生懸命委員会が考えた講師、18時になったということはきっちり書いてあるが、講師の話を是非聞いて、60周年に向ける原動力にしたいのだという意図を、いとも簡単に打ち砕くような文章を作って流したこと、まさしく見られているという事を考えていないという証拠だというように思われても仕方が無いのです。二度も三度もあってはならないのです。たまたまこの二週間で二度も発覚した訳です。じゃあそれは、事業を行う委員長が悪いのか、そこに行き着く話ではないです。オブザーバー出席している皆さんも、ここの席に座る時が来るはずです。若いメンバー、新しいメンバーに対して、そういう事を是非教えてあげてください。そういうことをしなかったツケが、今出たのではないかと私は思います。謝って済む時と、謝っても取り返しのつかない時があります。これを他山の石として、我が身に置き換えて、記憶してください。またキャビネットの皆さん、本日次年度が決まりましたが、次年度のキャビネットになる方も、この事をしっかりと記憶してください。

玉腰理事長

只今伊澤理事からございました件、私も重々承知しております。本年度の長といたしまして、全ては私の指導力不足から出た事でございます。この場で皆様にお詫び申し上げます。

と共に、次回からこのような事が無いように、更に指導して参りたいと思っております。私も12月に理事長バッヂを直前から付けていただいた時に、当たり前の事を当たり前にやる、そうして何よりも思いやりの気持ちを持ってやりたいのだ。思いやりの気持ちというのは、相手の気持ちになって物事を考えることだと私は思っております。今更ながら、それが出来ていなかったという現実を目の当たりにして、三役、常任、そしてこちらにお座りの皆様にも、更にご協力いただき、このような事が無いように、そして青年会議所とは、そういう組織であるという事を、更に次世代へと引き継いで参りたいと思います。この度は大変申し訳ございませんでした。

15. 監事講評

荒木監事

第5回理事会お疲れ様でした。大変話し辛い雰囲気の中、お話いたします。まずもって北嶋次年度理事長予定者のご英断に、私も敬意を表したいと思います。またお祝いを申し上げます。私も鈴木監事と同様、北嶋理事長予定者とは委員会をご一緒させていただいたことも無く、昨年三役会構成メンバーとしてご一緒させていただいたのが最初でした。皆さんも委員長、事務局長をご経験されてお解りだと思いますが、普通は委員長職というのは、その委員長職であつぱあつぱになるものだと思います。北嶋理事長予定者におかれましては、特別委員長ということで、委員会を預かりながら、三役会構成メンバーとして、常務理事に近い役割を担われていたということ、そして何より、そういう人一倍大変な状況にありながら、先ほど鈴木監事がおっしゃっていたように、ここ9年ほど、誰も達成出来なかった100%出席を、昨年2度達成され、本年度、各委員会の出席率が高い状況の、その先鞭をつけたのは、紛れもなく北嶋理事長予定者だったと思います。そして私もその時、何だか嬉しかったものですから、ラインでも何でも無いのに、一言おめでとうを申し上げに、二次会か三次会の終わった北嶋委員会にお邪魔して、お祝いを言わせていただきました。また、そんな小さな事を北嶋理事長予定者は覚えていて、あの時の事が非常に嬉しかったと、最近になっても言ってくれました。そんな北嶋理事長予定者だからこそ、メンバーはついて行ったのだと思います。ですので、来年の札幌青年会議所が、ますます素敵な組織になる事を信じております。残念ながら私は卒業ということで、近くで一緒に活動することは出来ませんが、この理事会構成メンバーの中で、来年以降残られる方におかれましては、しっかりと北嶋理事長予定者を支えていていただきたいと思います。

北嶋理事長予定者の話ばかりしてしまいましたが、本年度、いよいよ佳境に入って参ります。本日の理事会の議論、審議事項まではとんとん拍子に進んで、大丈夫かなと、理事者の皆さんはもう飽きてきたのかなと心配したのではございますが、協議事項に入りまして、非常に活発な議論がなされて、さすがだなというように思いました。私も1月2月まではしっかりと議案に目を通して、自分が理事者だったら何を言うかと考えて理事会に出席していましたが、最近そういう作業もさぼりがちであった所で、なるほど、そういう視点もあるなという意見が沢山出されていて、非常に素晴らしい議論であったのではないかと思います。本日はたまたま、齊藤室長が大変な目に遭いましたが、各常任理事の皆さんに於かれましては、皆さんは委員長を経験して、委員長達が見落としがちな、あるいは現場

にいる委員長はどうしても思い入れが強くなりますから、色々な視点で、こういう視点もあるのではないかと、ああいう視点もあるのではないかと、こういう角度から見ればこう見えるのではないかとというような事に、目が行かなくなりがちです。委員長を経験している常任理事の皆さんは、だからこそそういった、想定される視点を委員長に伝え、上程を上げるまでの間に徹底的に議論していただいて、自分として100%納得のいく状態になった時に、室長確認日を入れて上程に臨む、そのくらいの覚悟で諸会議に臨んでいただければと思います。また今後とも活発な議論が理事会でなされますことをご祈念いたしまして、第5回理事会の監事講評とさせていただきます。

鈴木監事

今日は冒頭の玉腰理事長の挨拶にも、会員拡大の話がありました。また近年の理事会の中で、会員拡大の推移といったものの話もされていたことが無いのではないかと思いますので、会員拡大について少しだけお話しいたします。会員拡大、会員開発、そういう言い方をすると、獲得とか勧誘とかに聞こえて、ちょっといやらしいのかと思ったりしますが、何て事は無い、会員拡大はJC運動そのものであろうというように思います。市民の皆様が、我々が本当に思うようなまちづくり運動であったり、ひとづくり運動であったり、そう言った活動をしていくことが出来たなら、JCなんか要らない、そんな素敵な社会が来るのではないかと思います。残念ながら、すぐにそうはならないので、志を同じくする者を集うために、JC運動そのものとして会員拡大といったものが、札幌青年会議所であれば59年間、脈々と受け継がれてきたのだと思います。あそこのラーメンは美味しいよね、きっと美味しいラーメンだったら、いいものは人に伝えたいと思います。是非、皆さん自身がやっている事に自信を持って、信念を持って、他人がどう言おうと、JCってこんな事をしているので、一緒にやらないか、たったそれだけの事です。皆さんもお解りの通り、会員拡大をしたからと言って、我々に金銭的なメリットがある訳でもありません。ただ、我々は青年会議所で行っている活動、一緒に集っている仲間、そういったものの素晴らしさを感じて、ここで行動を共にしているのだと思います。そんな事を知人に言うだけの事です。ですから、あまり会員拡大といった、そういった事に囚われない、会員拡大、開発の仕方というものもあると思いますので、気軽に皆さんの周りで知っている人、たまたまお会いした人、以前に名刺交換をしたことがある人、そういった人に声をかけていただければと思います。JCのOBの方々も、強力な応援団です。先日、松本先輩からも一人入れると言ってくださいました。また、佐々木潤先輩からも一人入れるとおっしゃってくださいました。どこかで先輩に会う度に、知人に会う度に、青年会議所を一緒にやりましょうと、私は来年おりませんが、凄く良い仲間達が沢山居るから、やりましょうと、そんな事を皆様も是非普段から心がけていただければ、純増どころか倍増となりますので、是非一人ずつお声がけのご協力をお願いいたしまして、私の監事講評とさせていただきます。

16. 次回理事会開催日の確認

2010年6月28日（月）18：30より

会場：札幌第一ホテル

17. 閉会

議事録署名人 齊藤 大輔

議事録署名人 岸田 卓也